

平成 24 年 3 月 2 日

ASET21 第 29 回議事録

日 時 平成 23 年 12 月 2 日

場 所 大阪市立大学文化交流センター 小会議室

参加者 大内(大阪市立大学), 川満(株式会社日建設計シビル), 鬼頭(大阪市立大学), 佐藤(JIP テクノサイエンス株式会社), 園田(大阪市立大学名誉教授), 角掛(大阪市立大学), 麓(近畿大学), 巻幡(JIP テクノサイエンス株式会社), 真鍋(国際建設技術研究所), 三浦(株式会社横河ブリッジ), 八木(株式会社富士ピー・エス), 安岡(梶川土木コンサルタント) 大学院生(8名)

以上 20 名・50 音順・敬称略

資 料

- 1)第 28 回 ASET21 議事録
- 2)地震衝撃力の発生機構に関する一考察(園田様)
- 3)地下鉄の耐震の現状について(川満様)
- 4)PC 梁部材におけるひび割れ性状に及ぼす繰返し载荷の影響に関する研究(真鍋様)
- 5)竹筋コンクリート部材に関する研究(松田)

議 事

1.記録確認[資料] 議事録の確認を行った

2.研究報告

- 1)園田様 阪神淡路大震災において、構造物に被害を及ぼす鉛直地震衝撃力があつたかは地震計の記録からは認められないが、地盤からの突き上げ力を示唆する現象が見受けられている。
また、震源から遠くにある RC 橋脚破壊が生じた現象の例をあげ、地震衝撃力の発生機構には地盤特性を考慮した解明が不可欠であり、これらの現象を弾性波動方程式や波動伝播解析を用い証明することを目標として現在研究を行っているという報告がなされた。
- 2)川満様 地下街の耐震診断の現状についての報告がなされた。全国の地下街について紹介された後、地下街の耐震診断の方法の報告があつた。地下街の構造を対象とした基準はなく、診断の際には各地下街が準拠する基準を設定するということが述べられた。その基準には建築流と鉄道流の基準があり、診断事例とともに報告された。
- 3)真鍋様 PC 梁部材におけるひび割れ性状に及ぼす繰返し载荷の影響に関する研究についての発表がなされた。繰返し载荷によって生じるひび割れの原因の一つを、主鉄筋とコンクリートの付着が劣化することにあると考え、PC 梁部材の疲労载荷実験、付着性状に着目した非線形 FEM 解析および実橋の PC 橋の詳細調査を通してひび割れ性状に及ぼす繰返し载荷の影響に関する考察が報告された。
- 4)松田 鉄筋コンクリートの鉄筋の代わりに竹材を使用した竹筋コンクリートに関する研究の発表がなされた。竹材の基本特性を明らかにするために行われた引張試験とコンクリートとの付着試験の結果が示され、その結果を元に部材の曲げ破壊実験を行い、竹筋を用いた部材の荷重変位関係についての考察がなされた。

3.次回の予定

日 時 平成 24 年 3 月 2 日(金)

場 所 大阪市立大学文化交流センター 会議室

話題提供予定 大学院修士 2 回修士論文報告